

こくたいと地域をつなぐお手伝い TEAM防災ジャパン

中川和之

内閣府 TEAM防災ジャパン アドバイザー

時事通信社解説委員 日本地震学会理事

元中央防災会議災害被害を軽減する国民運動専門調査会専門委員

元日本ジオパーク委員会委員

郷里(阪神間)の地震で防災啓発に目覚めた元科学記者

ジオパークや学会通じ熊本地震支援



地震4 地震翌年夏には、3学会が益城町で「地震火山こどもサマースクール」を開催

運営:内閣府政策統括官 (防災担当)
協力:防災推進協議会

TEAM防災ジャパンとは？

TEAM防災ジャパンとは、防災に関するあらゆる情報が集約されたポータルサイトです。全国各地で行われている防災イベントの紹介、防災に関連するニュースの提供を行うほか、様々な団体が作成している防災に関する資料などを集約しています。

運営: 内閣府政策統括官 (防災担当)
協力: 防災推進協議会

アドバイザー

更新情報等について防災に関する下記有識者からアドバイスをいただき、当サイトの運営を行っています。

鍵屋 一 (跡見学園女子大学)

中川 和之 (時事通信社)

福和 伸夫 (名古屋大学減災連携研究センター)

加藤 孝明 (東京大学生産技術研究所)



2015.03.17

中川和之(なかがわかずゆき)

時事通信社解説委員、静岡大学防災総合センター客員教授

主な活動地域：
東京都 全域

最近の防災・減災活動：

生年月日：1956年1月生まれ

出身地：岐阜県大垣市生まれ、兵庫県芦屋市育ち、横浜市在住、震災後の山形支局勤務でチーム東北の一員を自認

最近の地域防災・減災活動：消防庁編集の市町村長対象の危機管理研修資料作成をお手伝い。

阪神大震災がきっかけに始まった国民運動から発展



災害被害を軽減する国民運動

災害被害を軽減する国民運動の推進に関する基本方針

平成18年4月21日中央防災会議決定（中略）

これまで、防災への取組は、ともすれば専門家や防災担当者に任せて行うものと考えられていたが、最近、様々な主体の連携による新しい取組の萌芽が見られる。国民運動の展開に当たっては、防災活動へのより広い層の参加を確保し、参加者に正しい知識を分かりやすく提供することが必要である。さらに、防災知識を身につけ、防災意識を持った参加者が、企業や家庭において防災のための投資を促進し、幅広いネットワークを組織することが必要である。

このような取組を、国民一人一人、各界各層において、息長く続けていかなければならない。

ホーム

災害被害を軽減する国民運動

減災のてびき

一日前プロジェクト

ぼうさいカフェ

減災への取組

災害の記録

学ぶ

情報リンク集

イベントの紹介

あなたの無事を伝えましょう

災害用伝言
ダイヤル **171**

(社) 電気通信事業者協会

こちらからさまざまな

災害被害を軽減する国民運動とは？

地震、津波、台風など自然災害は思わぬときにやってきます。災害をなくすことはできませんが、被害を少しでも減らすことは今からでも取り組むことができます。

この国民運動は、皆さん一人ひとりが日頃から具体的な行動（事前の備え）に着手することによって、安全で安心して暮らしてゆける社会をつくってゆこうという運動です。

まず、普段からできることから取り組んでみましょう。この小さな取組が災害からあなたを守ります。



この国民運動のページは、今後も引き続き充実させたいと考えています。2006年4月中央防災会議



基本方針は作られたものの… (その後は当時の専門委員が粘り強く)

1.防災(減災)活動へのより広い層の参加(マスの拡大)

(1) 地域に根ざした団体における身近な防災への取組、(2) 予防的な取組を加味した防災訓練の工夫、(3) 地域における耐震補強の取組の面的な広がりの推進、(4) 防災教育の充実、(5) トップから一人一人まで参加者への動機づけ

2.正しい知識を魅力的な形でわかりやすく提供(良いコンテンツを開発)

(1) 多様な媒体の活用による防災教育メニューの充実、(2) 災害をイメージする能力を高めるための質の高い防災教育コンテンツの充実、(3) 災害のリスクや対策等に関する情報の作成、公開、周知の徹底

→(2)の成果として、文科省の助成事業で釜石の防災教育が実現



3.企業や家庭等における安全への投資の促進(投資のインセンティブ)

(1)企業や家庭等における安全への投資の促進、(2)ビジネス街、商店街における防災意識の醸成、(3)事業継続計画(BCP)への取組の促進

4.より幅広い連携の促進(様々な組織が参加するネットワーク)

(1)企業と地域社会の連携、(2)様々な主体が連携した地域における防災教育の推進、(3)災害に関する情報のワンストップサービス、(4)防災ボランティアの地域社会との積極的な連携

5.国民一人一人、各界各層における具体的行動の継続的な実践(息の長い活動)

(1)国民運動の継続的な推進枠組みの形成、(2)地域における防災活動の継続的な推進の枠組み作りの促進、(3)防災活動の優良な実践例の表彰、(4)人材育成のためのプログラムの開発、(5)インセンティブの拡大の検討

まだ実現できていないことばかりですが

TEAM防災日本のミッション

- ❖ 多様な担い手の人たちが、日ごろから必要としている情報を整理してストックしておく情報ストックヤードになることで、欲しい情報を見つけやすい。
- ❖ 現場を知らながら情報感度の高い人、情報集めが得意な人の知的作業の結果を共有することで、テーマや地域特性に合わせて理解することが出来る
- ❖ 各省庁、各自治体縦割りの中で、つなげて理解することができ、それぞれの担い手がアンテナを張りやすい。
- ❖ 制度政策の情報、現場の取り組みの情報、災害時の経験の情報、多様な現場の人の情報がつながった知恵の輪となりたい。

情報武装された地域防災の担い手の確立



TBJスタート翌年からぼうさいこくたい

- ❖ 国土庁防災局(当時)+政令市消防+防災推進協議会(業界団体)で毎年、政令市を巡回していた政府の「防災フェア」のアップデートが求められていた。

消防の防災<国民運動としての防災・減災

- ❖ 第1回は、熊本地震の直後に東京大学で開催
- ❖ 内閣府からの無茶ぶりで、熊本県消防協会会長、熊本県地域婦人会連絡協議会会長、熊本県女性防火防災クラブ連合会会長、熊本県消防長会会長にご登壇、日本看護協会や日本医師会、日本薬剤師会の方々、気仙沼市立階上中学校生徒会役員も加わったパネルをコーディネート。事前打ち合わせは、地震学会の別用の際に、熊本で実施。



毎回のこくたいで、いろいろな役割

- ❖ 第2回は、「このテーマの申請がないから、やって欲しい」という内閣府のリクエスト（むちゃぶり）に応える。第3回も東京では「こくたい案内ツアー」（旅費手弁当）。でも、いろいろな皆さんとの「オフミ」も開催できた。
- ❖ 名古屋、広島、釜石では、地元と各地からの参加者をつなげる場作りのお手伝い
- ❖ 神戸や横浜では、地元の盛り上げりを支え（事前の情報共有会議や、当日の実況中継などで）、各地に伝えるお手伝い

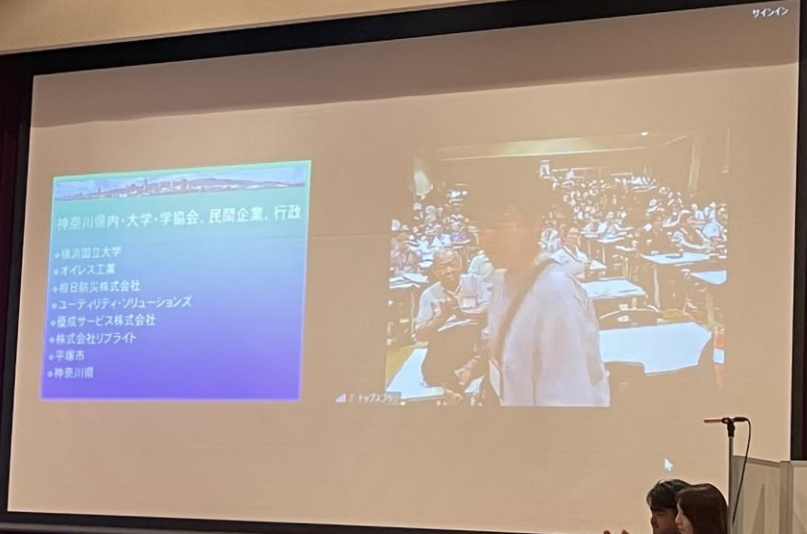
事情通だからこそ、いろいろなスキマを埋めてつなげる係がTBJ



横浜でもバトンタッチ、TBJでお手伝い

神奈川県元のお世話係とアドバイザー(私)もいたので

- ❖ 神戸のまねをして、県に情報共有会議の開催を原炊きかけ、ハイブリッドでの会議開催の進行お手伝い(詳しくは神奈川県から)
- ❖ 当日は、現地に来られない人向けに、Zoom(YouTube)で会場の中を中継。
- ❖ 初日の夜に、「大交流会」を提案し運営。
- ❖ 今年も、熊本・九州の地元の皆さんとつなぐお手伝いを



- 神奈川県内・大学・学協会、民間企業、行政
- 横浜国立大学
 - オイスカ工業
 - 相模新栄株式会社
 - ユータリティソリューションズ
 - 豊成サービス株式会社
 - 株式会社リアライト
 - 平塚市
 - 神奈川県



メインホールに集まった80団体が1分自己紹介の大交流会



熊本が、九州の皆さんが、
全国の防災仲間と繋がって
元気になる場がぼうさいこくたい

TEAM防災ジャパンに
お手伝いさせてください